

保育実習の指導の在り方に関する一考察
～実習現場における指導の実態を中心に～

Considering Ways to Coach Nursery Teacher Trainees:
Emphasizing the Teaching Realities of On the Job Training

開 仁 志
HIRAKI Hitoshi

目的

筆者が過去勤務（平成17年4月～平成21年3月）していた富山短期大学（以下短大）では、幼稚園教諭及び保育士を養成するために、表1のような実習を行っている。様々な実習が行われている中で、短大では、実習の実態把握や改善に努めている。しかし、実習現場においてどのような実習指導が行われているかについては、把握し切れていない面もある。

筆者はこれまで、教育実習Ⅰ¹⁾、保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ²⁾、保育実習Ⅰの2³⁾、教育実習Ⅱ⁴⁾、において実習後に短大幼児教育学科の学生（以下実習生）に対してアンケートを取り、実習現場の指導体制や実習生への指導内容について明らかにしてきた。

本研究では、初めての外部での実習となる保育実習Ⅰの1を体験した、短大1年生の実習生を対象にアンケート調査を行い、実習現場における実習指導の実態と、具体的な指導の内容を明らかにし、今後実習前に短大に望まれる指導内容についての示唆を得ることを目的とする。

表1 富山短期大学における保育者養成にかかわる実習計画

実習時期	実習名称（対象施設）	
1年次前期	5～7月（隔週）	教育実習Ⅰ（短大付属幼稚園）
	9月（連続）	教育実習Ⅰ（短大付属幼稚園）
1年次後期	10～11月（連続）	保育実習Ⅰの1（保育所未満児中心）※本研究の対象
	2～3月（連続）	保育実習Ⅰの2（施設）
2年次前期	6～7月（連続）	保育実習Ⅱ or Ⅲ（保育所以上児中心 or 施設）
	9月（連続）	教育実習Ⅱ（外部幼稚園）

方法

保育実習Ⅰの1（平成20年10月24日～11月7日の期間中10日間実施）終了後の実習生を対象として集合調査法によりアンケートをとり、分析・考察する。

(1)実習生数 短大幼児教育学科1年生 93名

(2)アンケート実施時期 平成20年11月21日

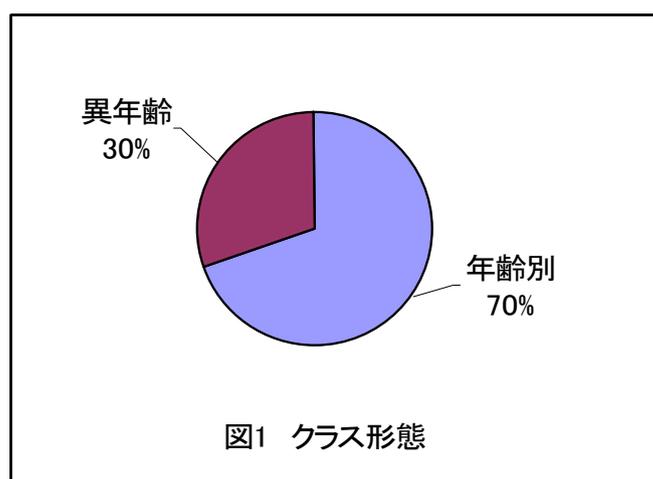
(3)回収率 93名中92名（99%）

結果及び考察

(1)現場で行われている実習指導の実態

①クラス形態

実習生が配属された保育所のクラス形態であるが、92名中、年齢別クラスが64名（70%）、異年齢クラスが28名（30%）という結果になった。（図1参照）



年齢別クラスと異年齢のクラスでは、保育における留意点の違いがあることが予想される。このことから、実習生が配属されるクラスを把握しておくことで、事前指導に生かすことができ、実習への準備をすすめることができると考える。

②担当年齢

実習生が配属された保育所のクラスは、3歳未満児、すなわち0～2歳児（以下未満児）が大半を占める。（図2参照）これは、できるだけ対象クラスを未満児クラスになるよう実習依頼しているためである。回答合計が154と、92名を越えるのは、担当した乳幼児の年齢が複数になる者がいるからである（表2参照）。年齢別のクラスでは、0～2歳まで、3日間ずつ交替で担当したという者や、異年齢クラスでは、0～3歳までの乳幼児を担当した者もいる。実習現場の思いとして、同年齢クラスで10日間連続的に実習して学びを深めてほしいという意図と、未満児の保

育の特徴を複数の年齢を担当することで感じてほしいとする意図の2種類あることが推測される。

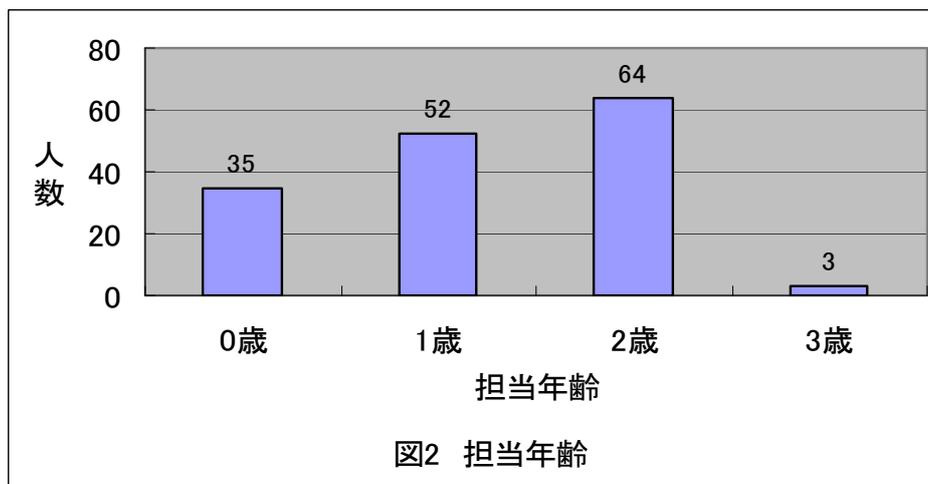
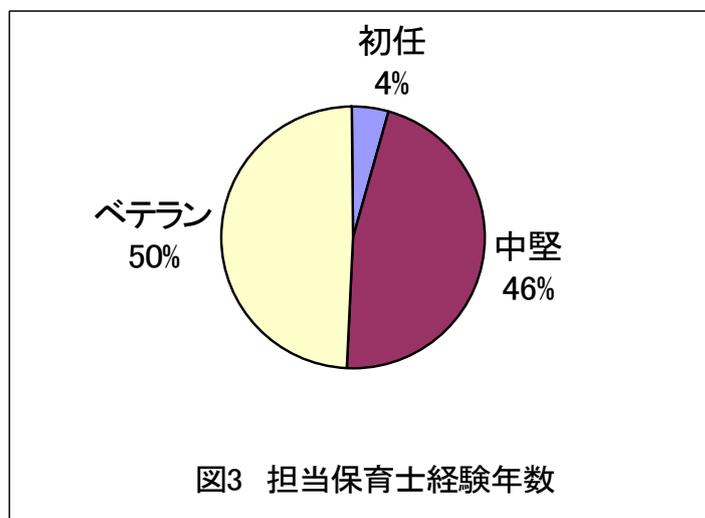


表2 担当年齢数

担当年齢数 / クラス形態	1	2	3	4	合計
年齢別	39	12	13	0	64
異年齢	12	9	6	1	28
合計	51	21	19	1	92

③担当保育士経験年数

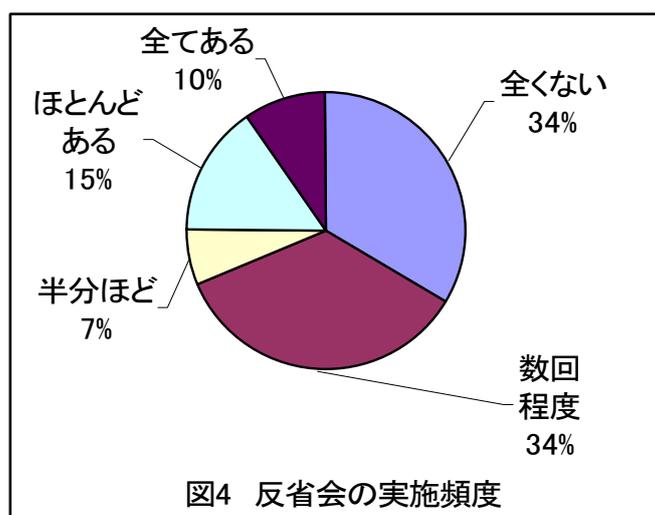
担当保育士の保育現場における経験年数は、初任（1～5年）4名（4%）、中堅（5～15年）41名（46%）、ベテラン44名（50%）という結果になった（有効回答数89名）。日々の保育実践に加え実習指導を行わなければならないという負担面と、実習指導が行えるという能力面を考慮して、中堅以上の保育士を実習担当にしているところが多いことが窺える。



④反省会の実施頻度

反省会の実施頻度は、「全くない」「数回程度」を合わせて68%（92名中63名）になる。保育所保育指針に、保育士は「自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にする」とあるとおり⁵⁾、保育士は日々の保育実践について反省会等の話し合いを通して省察をし、次の保育につなげていくことが求められる。

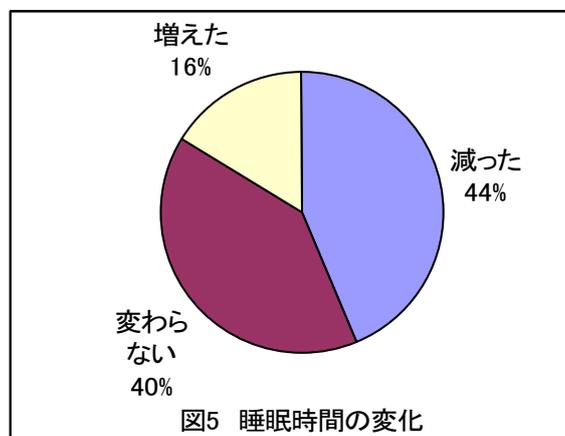
しかし、実習において、毎日反省会を行っているところは少ないという実態がある。このことから、実習生は、担当保育士に疑問点を積極的に聞いて確かめる姿勢と、自分なりに省察する術を身に付ける必要があると言えよう。



(2)実習生の睡眠時間について

①実習生の睡眠時間の变化

普段の生活の睡眠時間と比較した実習中の睡眠時間の变化について聞いた。すると、「減った」という実習生は40名（44%）、「変わらない」37名（40%）、「増えた」が15名（16%）という結果になった（92名回答）。



実習中は、帰宅後に実習日誌を書いたり、次の日の準備をしたりするので、睡眠時間が減る実習生が大半であると予想していたが、実際は、睡眠時間が減った実習生は40名(44%)と過半数に達しなかった。また、普段の生活と比べて睡眠時間が増えている実習生が15名(16%)いた。これは、普段は夜更かしをして睡眠時間が短い傾向があった実習生が、実習中において、朝は早く起きて実習先へ勤務することを求められ、夜は実習の疲れから早く寝るようになり、生活リズムが整ったのではないかと推察する。

最低睡眠時間は平均4.8時間、平均睡眠時間は平均5.9時間、最高睡眠時間は平均6.9時間であった(図6、表3参照)。

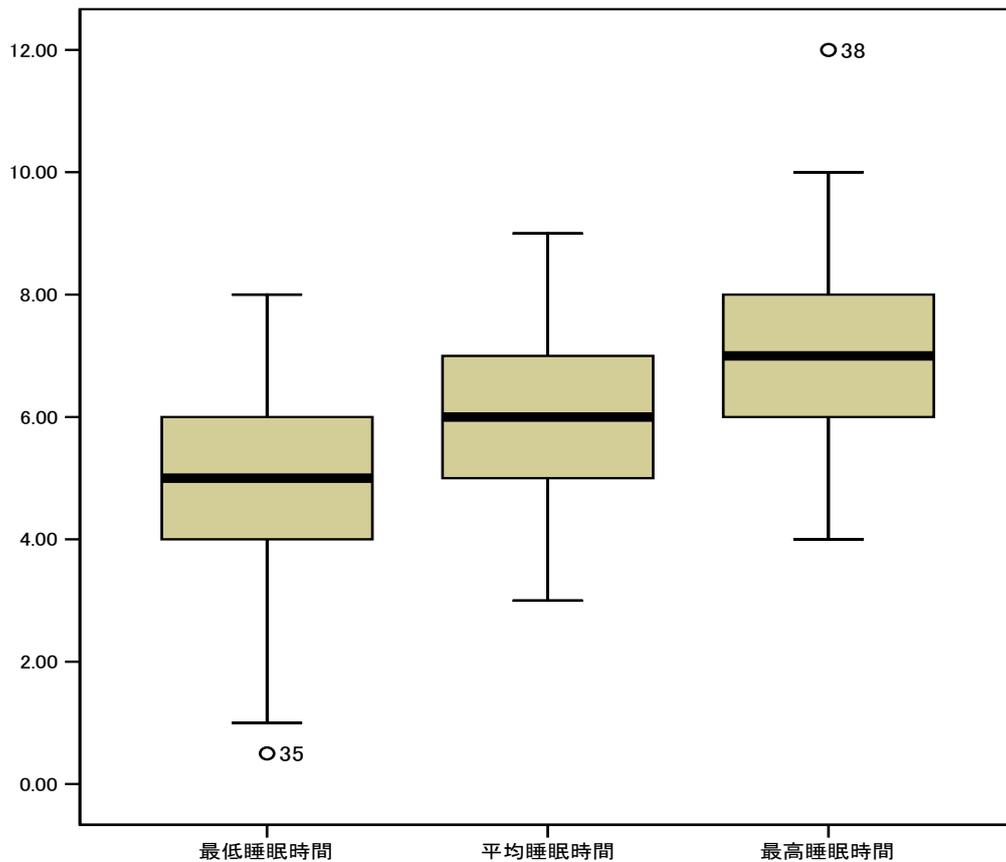


図6 睡眠時間の箱ひげ図

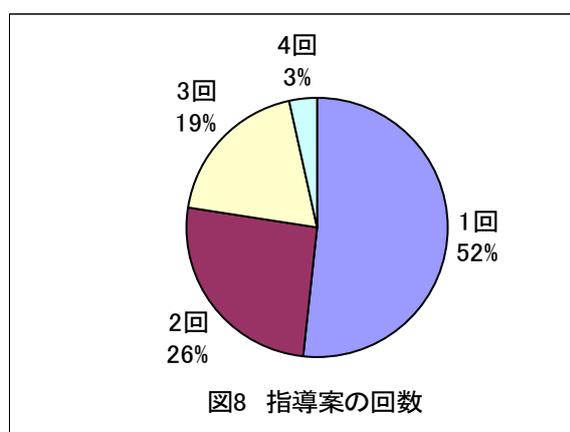
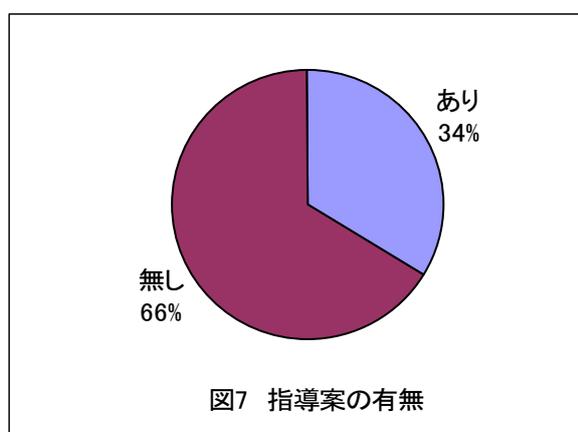
表3 睡眠時間

	最低値 (時間)	平均値 (時間)	最高値 (時間)
最高睡眠時間	4	6.9	12
平均睡眠時間	3	5.9	9
最低睡眠時間	0.5	4.8	8

(3)指導内容について

①指導案について

指導案作成があったという実習生は31名(34%)、指導案作成がなかったという実習生が61名(66%)であった(92名中)(図7参照)。指導案作成を行った実習生(31名)の中で、1回だけ作成したのは16名(52%)、2回作成は8名(26%)、3回作成は6名(19%)、4回作成は1名(3%)であった。未満児クラスの実習では、指導案作成がない保育所が過半数を占めるにもかかわらず、指導案作成を行う保育所では、最高4回作成する場合もあるということで、実習生の経験としてばらつきがあることがわかる。指導案については、最低限何回作成するのかといった基準を設けることで、実習生の経験内容を保障することができるのではないかと考える。

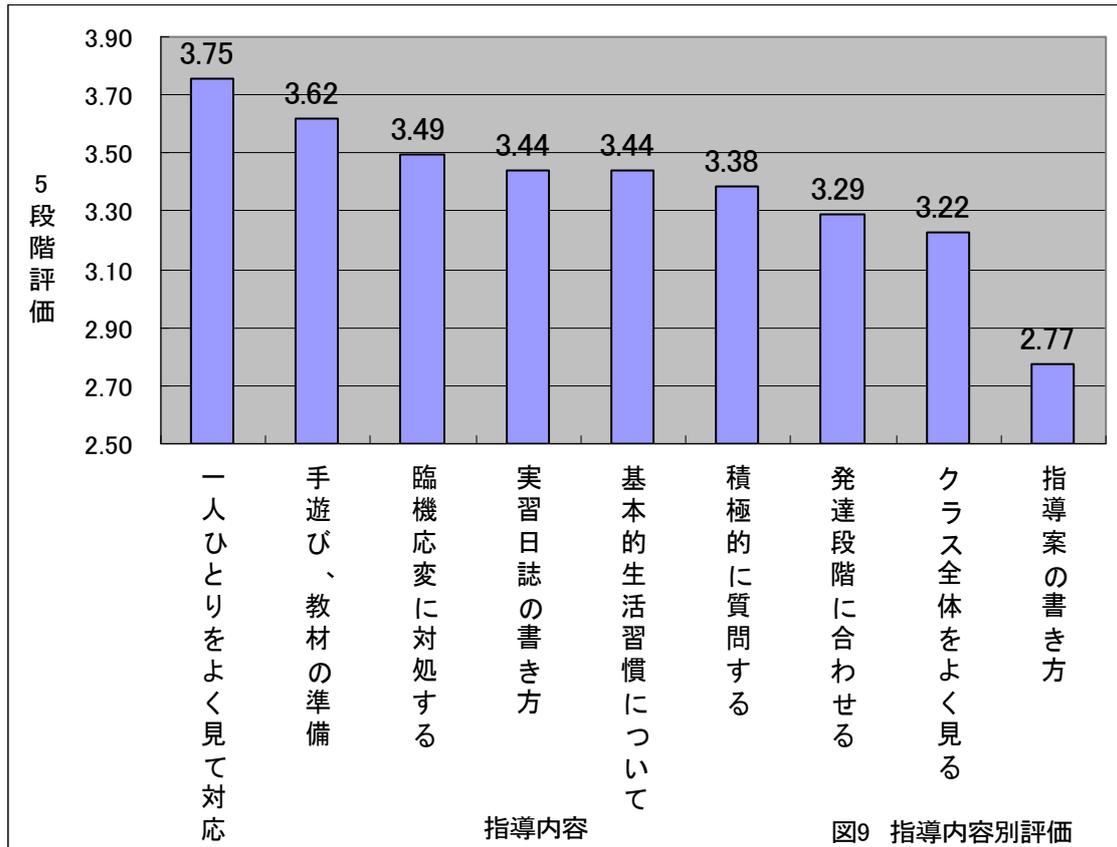


②指導内容の評価

実習において指導された内容を、「よく注意された」(1点)～「よくほめられた」(5点)までの5段階評価で聞いた。数字が大きくなるほど、指導においてよい評価を受けていることを示している。項目ごとに89名ずつの回答を得たが、指導案の書き方についての項目のみは、指導案作成をした31名の回答になる。項目ごとに点数を合計して平均を出した結果が、図9である。

よい評価を受けた指導内容は、「一人ひとりをよく見て対応」、次いで「手遊び、教材の準備」である。未満児クラスでは、1対1の対応の場面が多く、実習生にとって意識してかかわりやすい面があるのではないかと考える。手遊びや教材の準備については、実習前に用意していきやすいことからよい評価につながっているのではないかと推測する。

「指導案の書き方」については、一番悪い評価を受けている。保育の総合的な力が必要となり、文章表現力も要求されることから厳しい評価につながっていると考えられる。他に悪い評価については、「クラス全体をよく見る」「発達段階に合わせる」であるが、1対1の対応をしていると、他の子どもまで目が行き届かなくなったり、周りの状況が見えにくくなったりする実習生の実態が窺える。また、複数の年齢を担当する実習生が多いことから、乳幼児一人一人の発達段階に合わせて保育を行う場面があり、それに対応することへの困難さが表れていると推察する。



③具体的な指導内容

具体的に指導された内容を記述形式で回答を得た。実習日誌については、「誤字脱字」「話し言葉は使わない」などの文章表現的なこと、「多様な視点をもつこと」「子どもの内面を読み取ること」「保育士の援助などをできるだけ詳しく書く」などの内容的なことへの指摘が見られた。指導案については、「ねらいと内容の違いを考えること」「理由をはっきりさせて保育士の援助を細かく書くこと」など、保育士の意図を明確にして具体的に何をするのか書くことへの指摘が見られた。保育を実際に行う上で指導されたことは、「積極的に子どもとかわる」「保育士も一緒に楽しむ」「全体をよく見る」「安全面への配慮」「子どもが自分でできることは自分でするように見守る」など、保育の実際の場面に即した具体的な指導を受けている。

(4)実習前に学校においてあればよかった指導

実習に行く前にあればよかった指導について聞いた。以下は主な回答である。

A 遊びについて

「おもちゃの名前・使い方」「うた遊び、手遊び」「絵本・紙芝居の読み方」

B 職場でのかわり

「マナーや礼儀」「先生とのコミュニケーション」

C 文章・保育指導

「実習日誌の書き方」「未満児の指導案の書き方」「先輩の実例」

D 乳幼児の発達

「未満児の発達」「乳児とのかかわり」「子どもとのかかわりの事例」

E 乳幼児の養護面

「小児保健実習」「応急処置」「おむつ替え・排泄物の始末」「ミルクの飲ませ方」「おんぶ」

乳幼児の発達について復習し、遊びのレパートリーを増やし、養護面での保育技術の練習、先輩の実例を聞き実習日誌や指導案に活かしていくことなどが望まれている。

まとめ

保育実習Ⅰの1における実習現場の実態が調査により明らかになってきた。この実態を養成校が踏まえた上で今後の実習指導の在り方を考えていく必要性を再確認した。

具体的には、以下のような改善が考えられる。

- (1)実習生が配属されるクラス形態に合わせた事前指導
- (2)反省会の実施頻度の実態に合わせた保育の振り返りの事前指導
- (3)指導案の有無の確認及び指導案の事前指導
- (4)実習生の要望を取り入れた事前指導の内容改善

このアンケート結果を、今後の実習指導へ活かしていきたい。

謝辞

実習を担当していただいた保育所の皆様、短大幼児教育学科の教職員の皆様、アンケートに回答していただいた実習生の皆様に感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 開仁志「教育実習の効果的な指導の在り方」富山短期大学紀要、第41巻(2006) pp61-72
- 2) 開仁志「保育実習の効果的な指導の在り方」富山短期大学紀要、第42巻(2007) pp17-30
- 3) 開仁志「保育実習における指導に関する一考察」富山短期大学紀要、第43巻(1)(2008) pp137-147
- 4) 開仁志・大平泰子「幼稚園教育実習生への指導のあり方に関する一考察～実習現場における指導の実態を中心に～」富山短期大学紀要、第44巻(2009) pp63-72
- 5) 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館(2008) p25

資料

平成20年度保育所実習アンケート

保育所実習、お疲れさまでした。大変でしたが、よい経験になったと思います。研究としてまとめ、今後の指導に生かしたいと思いますので、アンケートに答えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

- 1 ()組 学籍番号 () 氏名 ()
- 2 保育所名 () どちらかの番号に○をつけて、何歳児担当か書いてください。
 - ① 年齢別 () 歳 or ②縦割り (主に) 歳を担当)
- 3 担当していただいた保育者の方の経験年数は？
 - 1 初任 (1～5年) 2 中堅 (5～15年) 3 ベテラン (15年以上)
- 4 1日の保育終了後に反省会はありましたか？1つ○を付けてください。
 - 1 全くない 2 数回程度 3 半分ほど 4 ほとんどある 5 全てある
- 5 普段と比べて、1日の睡眠時間の変化はありましたか？1つ○を付けてください。
 - 1 減った 2 変わらない 3 増えた
- 6 保育所実習の1日の平均睡眠時間は、どれだけですか？
 - 1最低 () 時間 2平均 () 時間 3最高 () 時間
- 7 指導案は、書きましたか？どちらかに○をつけて、「はい」の場合は、数字を書き込んでください。
 - 1 はい () 回程度 2 いいえ
- 8 以下のことについて、1～5までの数字に○を1つ付けてください。
 - ① 指導案の書き方について (指導案を書いていない場合は、無記入で結構です。)

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ② 実習日誌の書き方について

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ③ 一人一人をよく見て対応すること

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ④ クラス全体を見て対応すること

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ⑤ 各年齢の発達段階に合わせた保育をすること

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ⑥ 積極的に先輩保育者に質問すること

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------
 - ⑦ 気を利かして臨機応変に対処すること

よく注意された	1	2	3	4	5	よくほめられた
---------	---	---	---	---	---	---------

⑧ 実習生自身の基本的な生活習慣について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑨ 手遊びや保育教材の準備について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

9 保育所実習を通して不安を感じましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

1 全く感じなかった 2 あまり感じなかった 3 少し感じた 4 とても感じた

10 保育所実習を終えて、達成感はありましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

1 全く感じなかった 2 あまり感じなかった 3 少し感じた 4 とても感じた

11 保育所実習を終えて、満足感はありましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

1 全く感じなかった 2 あまり感じなかった 3 少し感じた 4 とても感じた

12 現時点で、教職・保育職に就きたいと考えていますか。一つ選んで○をつけて下さい。

1 全く就きたいと思わない 2 あまり就きたいと思わない 3 少し就きたいと思う

4 とても就きたいと思う

13 実習日誌の書き方で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

14 指導案の書き方で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

(指導案を書いている場合のみ)

15 保育を実際に行う上で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

16 保育所実習を通して、不安に感じたことは何ですか。自由に書いてください。

17 不安に感じたことについてどのように対処しましたか。自由に書いてください。

18 保育所実習にあたって、どのようなサポートを受けましたか。自由に書いてください。

19 そのサポートは誰から受けましたか。自由に書いてください。

20 保育所実習を通して、学んだこと、身に付いたこと、変化したところは何ですか。

自由に書いてください。

21 今回の保育所実習の前にどんな指導があればよかったと思いますか？

自由に書いてください。